



『小諸市公共施設等 総合管理計画』を 策定します【第3回】

これまでの広報では、小諸市が保有する公共施設等の総量や、老朽化の状況についてお知らせしました。今回は、全ての公共施設等を耐用年数が経過したものから、順番に建替え工事を実施した場合、どのくらいの費用が必要になるか試算した結果をお知らせします。

◆試算の方法と条件

試算には平成27年度に公表した、「小諸市公共施設白書」の情報を活用しています。この白書の情報を、(一財)地域総合整備財団が公表している「公共施設等更新費用試算ソフト」に入力して試算を行いました。このソフトには、総務省等の有識者会議や複数の先行事例を基にした、様々な条件があらかじめ設定されています。例えば、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は50年と言われていますが、実際の建物はこの期間を過ぎても十分使用できるものもある

ため、建て替える時期を建物の老朽化の状況に合わせて設定することもできます。

今回の試算では、このソフトの初期設定である、建設から30年を経過したら大規模修繕工事を実施し、60年を経過したら建替え工事を実施するといった条件のもとで試算しています(条件は構造により異なる)。この試算結果は、現時点における再整備費用の見込み額であって、今後の経済状況や物価変動等によって、費用は大きく変動します。また、試算条件を変えることも費用が変動します。

◆試算結果

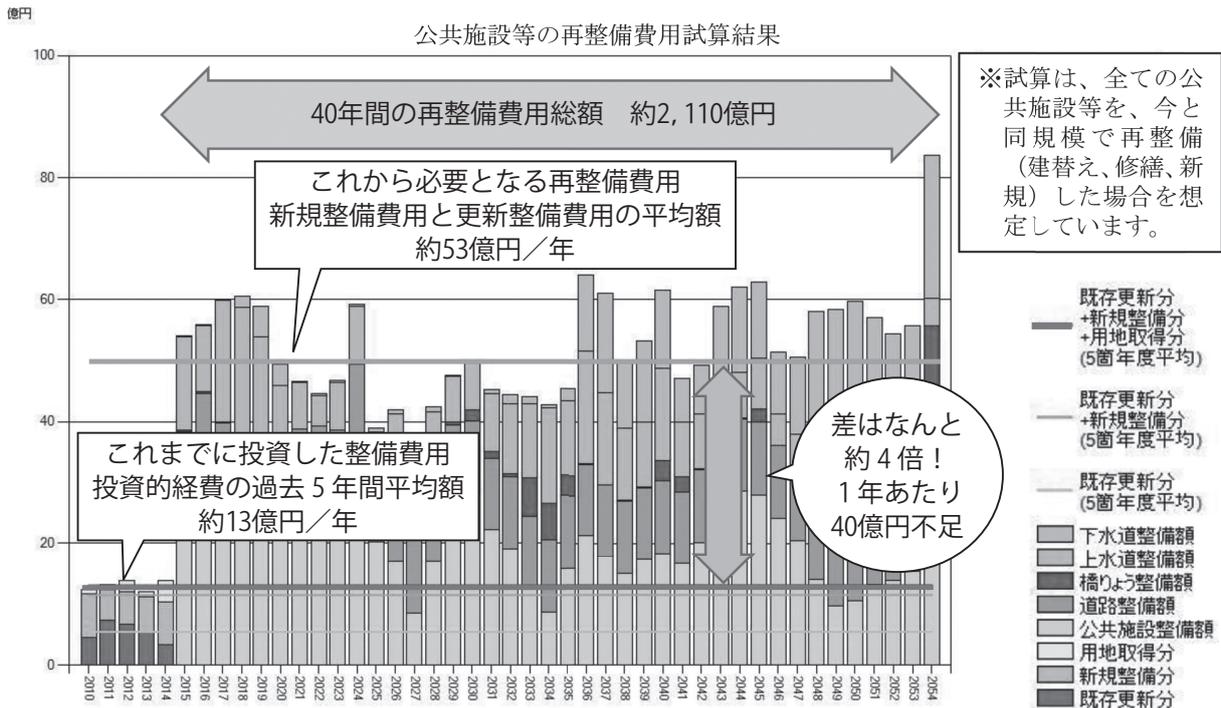
試算結果は下図のとおりです。図の左側、2010年(平成22年)から2014年(平成26年)の5年間は、公共施設等の維持管理や新規整備に関する実際の投資額で、1年あたり平均13億円を投入しています。これは、老朽化した部分の改修や、建替え工

事の他に、新たに整備された公共施設やインフラ施設に投資した額です。

図の残りの部分は、2015年(平成27年)から40年間に必要となる再整備費用を表したもので、総額は約2,110億円に上る見込みとなりました。1年あたりでは平均約53億円となり、過去の投資額と比較すると約4倍となります。

この結果に基づくと、現在の財政状況では、全ての公共施設等を今までと同じ規模で再整備することは非常に難しい状況です。このままでは、本当に必要な施設でも再整備できない恐れもあります。このような状況を考慮して、将来に渡って必要な施設を維持していくための計画が「公共施設等総合管理計画」です。次号では、この計画の基本的な方針についてお知らせします。

▼問い合わせ先
財政課 検査・施設計画担当



出典：平成27年度小諸市公共施設白書より、一部加筆